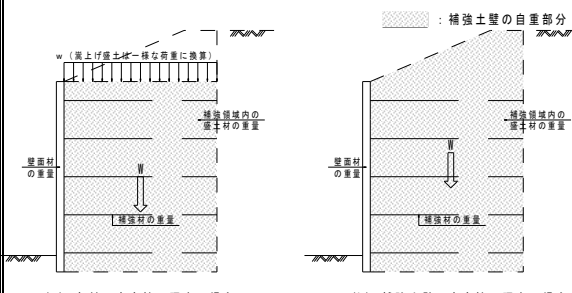
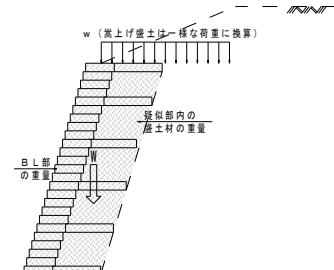
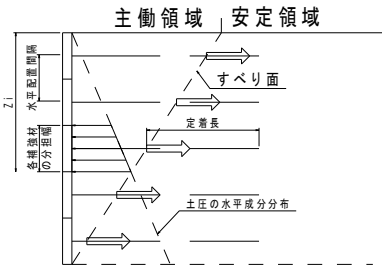
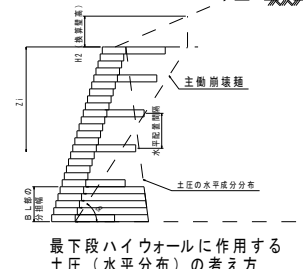


擁壁工指針と補強土ハイウォール

擁壁工指針 第6章 補強土壁 の規定と 補強土(Reiforeced)ハイウォール考え方

	擁壁工指針	Reinforcedハイウォール
定義	盛土内に敷設した補強材と鉛直または鉛直に近い壁面材とを連結し、壁面材に作用する土圧と補強材の引き抜き抵抗が釣り合いを保つことにより、土留め壁として安定を保つ土工構造物をいう。	盛土内に敷設した(疑似部)ハイウォールと鉛直に近い(BL部)ハイドロックとを連結し、BL部材に作用する土圧でBL部材が抜け出さないことにより、土留め壁として安定を保つ土工構造物をいう。
補強土壁の種類	帯鋼補強土壁 : 鉛直壁 ; テールアルメ等 アンカー補強土壁 : 鉛直壁 ; 多数アンカー ジオテキスタイル補強土壁 : 勾配 ; テンサー等	ジオセル・ハイウォール : 勾配 1:0.1~
補強土壁の自重の考え方	 (a) 部材の安定性の照査の場合 (b) 補強土壁の安定性の照査の場合	 新補強土ハイウォールの自重の考え方
補強土壁自体の安定性の照査	滑動に対する照査	同左
	転倒に対する照査	同左
	支持に対する照査	同左(補強領域の底面における鉛直地盤反力度を計算)
部材の安定性に用いる土圧	 主働領域 安定領域 すべり面 定着長 土圧の水平成分分布	 最下段ハイウォールに作用する土圧(水平分布)の考え方
部材の安定性の照査	壁面材に作用する土圧によって発生する補強材の破断、引抜き、壁面材の破壊及び壁面材と補強材の連結部の破断に対する安定性を照査し、補強材や壁面材等の強度並びに補強材の引抜きに対して必要となる補強材の長さや設置間隔を設定する。	壁面材(BL部ハイウォール)に作用する土圧によって、同材の滑動に対しての必要となる壁厚と設置間隔を設定する。
補強土壁の変状	補強土壁は、前述した力学的なメカニズムに起因し、完成後もある程度の変形を伴うことがある。しかし、適切な設計・施工がなされた場合、その変形量は限定的であり、構造的な安定に支障が生じることはない。	同左
	① 盛土材料と締固め不足に起因する変状	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	② 基礎地盤に起因する変状	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	③ 水に起因する変状	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	④ 地震動に起因する変状	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
適用に当たっての留意点	① 急峻な奇形への適用	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	② 集水地形への適用	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	③ 軟弱地盤への適用	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	④ 変形に対する制限が厳しい箇所や異種構造物との隣接箇所への適用	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	⑤ 積雪寒冷地への適用	同左(擁壁工指針の記載内容通り)
	⑥ 水辺への適用	同左(擁壁工指針の記載内容通り)